

平成11年度試験研究成果

区分	普及	題名	品種 えだまめ 「滝系C8」		
[要約] えだまめ「滝系C8」は完全莢率が高く高収量で、食味が特に優れる中生品種である。					
キーワード	えだまめ	滝系C8	品種	園芸畑作部 野菜畑作研究室	

1. 背景とねらい

えだまめは本県野菜の中で重点品目の一つであり、水田転作の強化もあって推進が図られている。また、市場流通上は莢の大きさや充実性が求められている一方で、消費嗜好の多様化により良食味品種への要望も高まっている。

「滝系C8」は茶毛であるが、実入りが良く、食味が特に優れる特性を持っているため、差別化販売に適した品種である。

2. 技術の内容

(1) 来歴： えだまめ「滝系C8」は昭和61年に岩手県立農業試験場において、中生で良食味の「ふくら」を母親、晩生で良食味の「中生茶豆」を父親として交配し、その後代より育成した系統である。

- (2) 特性：
 ア 胚軸色は緑、葉の形は円葉、花色は白。
 イ えだまめ収穫期の毛茸色は白に近い薄茶色。
 ウ 主茎長は「ふくら」より極く長く、分枝数はやや多い(表1)。
 エ 着莢数は「ふくら」より多いが、着莢はやや疎(表1)。
 オ 成熟時の種皮色は黒。
 カ 莢の大きさは「ふくら」並のやや小莢(表3)。
 キ 開花期は「ふくら」より約7日遅い(表1)。
 ク 収穫期は「ふくら」より約5日遅い中生の晩。5月中～下旬播種の場合、県中南部での収穫期は8月中～下旬である(表1)。
 ケ 稔実莢数が「ふくら」より多く、中生品種としては極く多収(表1)。
 コ 完全莢率、多粒莢率とも高い(表1、2)。
 サ 甘み、香りとも特に強く、「ふくら」より優っている(表6)。また、黒大豆であるため、蒸煮後は莢色が部分的に黒ずんできてくる。
 シ ダイズ黒根腐病に弱(表4)。また、SMV抵抗性を有しない(表5)。

3. 普及上の留意事項

- (1) 蔓化倒伏しやすいので、マルチ栽培の場合は栽植密度を「ふくら」より少なくし、畦幅140cm(9230Bマルチ使用)、もしくは畦幅160cm(9224Bマルチ使用)とする。
 (2) 収穫適期を過ぎると外観品質が低下するので適期収穫に努める。

4. 技術の適応地帯

- (1) 適応地域：高標高地、高冷地を除く県下全域
 (2) 適応作型：マルチ栽培または裸地栽培
 (3) 普及見込み面積：20ha

5. 当該事項に係る試験研究課題

〔野菜2〕-1-(1)-イ 市場性の高い岩手銘柄えだまめ品種の育成

6. 参考文献・資料

- (1) 平成7年度試験成績概要書 岩手農試県北分場
 (2) 平成7年度畑作に関する試験成績概要書 岩手農試技術部
 (3) 平成9～11年度野菜関係試験成績書(未定稿) 岩手農研センター

7. 試験成績の概要

表1 生育時期、生育及び収量(北上)

品種 系統名	試験年次 (年)	播種 (月.日)	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	主茎長 (cm)	一次 分枝数	稔実莢数		完全莢率 (個数%)	多粒莢率 (個数%)	完全莢収量 (kg/a)
							(個/個体)	(個/m ²)			
滝系C8	H 7	6. 1	-	8.22	80	8.1	91	506	73	47	94
	H 9	5.15	7.12	8.22	85	7.1	85	506	74	33	104
	H10	5.18	7.13	8.24	73	7.4	102	486	73	31	103
	H11	5.21	7.14	8.16	73	8.3	133	633	76	56	130
	平均	5.22	7.13	8.21	78	7.7	103	533	74	42	108
ふくら(標)	H 7	6. 1	-	8.20	49	7.5	79	439	75	40	68
	H 9	5.15	7. 5	8.14	29	7.0	73	434	73	23	98
	H10	5.18	7. 8	8.17	47	4.9	62	369	55	37	61
	H11	5.21	7. 6	8.11	53	7.6	101	481	62	49	76
	平均	5.22	7. 6	8.16	45	6.8	79	431	66	37	76
中生茶豆	H11	5.21	7.23	9. 7	95	10.9	178	847	62	8	156

H7: 畦幅150cm × 株間24cm × 2条 (556株/a) H9: 畦幅140cm × 株間24cm × 2条 (595株/a)

H10: 滝系C8 畦幅140cm × 株間30cm × 2条 (476株/a) ふくら 畦幅140cm × 株間24cm × 2条

H11: 畦間140cm × 株間30cm × 2条

完全莢: 1莢に2粒以上の充実した子実粒を有し、空のない莢(市場出荷時のA品に相当)

表2 生育時期、生育及び収量(軽米)

品種 系統名	試験年次 (年)	播種 (月.日)	開花期 (月.日)	収穫期 (月.日)	主茎長 (cm)	一次 分枝数	完全莢率 (個数%)	上莢収量 (kg/a)
滝系C8	H 7	5.12	7.22	8.31	69	6.9	92	113
ふくら(標)	H 7	5.12	7.17	8.18	47	7.7	89	83

畦幅140cm × 株間24cm × 2条

上莢: 1莢中に2粒以上の充実した子実粒を有する莢

表3 3粒莢の大きさ及び色調

品種 系統名	試験年次 (年)	莢の大きさ				莢色			
		重さ(g)	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	L*	a*	b*	X
滝系C8	H 7	2.9	59	13	8.1	54	-17	36	114
	H10	4.0	60	14	9.0	51	-15	31	107
	H11	3.2	60	13	8.4	54	-14	28	110
	平均	3.4	60	13	8.5	53	-15	32	110
ふくら(標)	H 7	2.4	60	12	7.2	56	-16	35	121
	H10	4.3	67	13	9.8	54	-16	31	106
	H11	3.1	60	12	8.6	56	-16	30	106
	平均	3.3	62	12	8.5	55	-16	32	111
中生茶豆	H11	3.8	57	14	8.7	56	-14	27	121

$X = L^* \times b^* / |a^*|$ Xが小さいほど莢色は濃い

表4 大豆立枯性病害(ダイズ黒根腐病) 特性検定結果(H7)

品種系統名	発病株率(%)	発病度	ハロソイ対比	判定
滝系C8	100	3.15	0.862	弱
ナツシロメ	100	2.43	0.711	弱

場所: 岩手農試ダイズ連作土壌搬入圃場

表5 ダイズモザイクウイルス接種反応 試験結果(H7)

品種系統名	Aレース		Bレース		Cレース		Dレース	
	罹病率	判定	罹病率	判定	罹病率	判定	罹病率	判定
滝系C8	100	S	100	S	100	S	100	S
ネマシラス	30	R	50	R	100	S	100	S

場所: 東北農試大豆育種研究室(刈和野)

罹病率(%) = 罹病株 / 接種株 × 100

S: 感受性 R: 抵抗性

Eレースについては判定できなかった

表6 食味(H11)

品種系統名	外観(形)	外観(色)	甘み	香り	総合
滝系C8	3.0	2.4	4.1	4.0	3.9

蒸煮後、「ふくら」を基準(3)として

1 ~ 5で評価した(パネラー15人)